

Book Review



根管洗浄

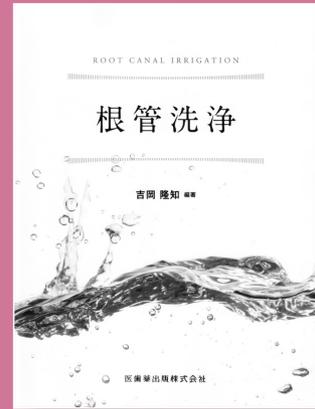
吉岡隆知 編著 / 吉岡俊彦・古畑和人 著



Reviewer

辺見浩一 Kouichi Henmi
(東京都・恵比寿ヘンミデンタルオフィス)

A4 判変, 80 頁
カラー
定価 5,940 円
(本体 5,400 円+税 10%)
医歯薬出版刊



日々の臨床のなかで歯内療法の頻度は多く、特にわれわれ日本人はたくさんの方の再根管治療の症例に遭遇する。再根管治療は、決して簡単な治療ではなく、根管の解剖学的形態が破壊されていけばいるほど、感染源は複雑な根管の構造の奥に潜み、除去を困難にする。そのため、成功率は決して高いとは言えず、自分の思うような結果にならないことも少なくない。

そのために、多くの根管治療のセミナーが開催されているが、ニッケルチタンファイルの新製品の使い方など、根管形成をいかに速く行うかというところに着目したものが多く感じる。もしかしたら、それを受講しても、日々のエンドの臨床結果にあまり反映されないと感じる読者の先生方も少なくないのではないだろうか。もし、そのようなことを実感していらっしゃるようであれば、評者は「根管洗浄」を改めて勉強することをおすすめしたい。

現代歯内療法は、根管形成の終了した根管という器に対して、いかに洗浄液を隅々にまで行き渡らせ、感染除去を行うかが成功の鍵を握る。根管洗浄は、感染除去の要となる重要なステップである。それは、多くの歯科医師が

理解していることではあるが、根管洗浄を適切に学ぶ場所がなかなかない。

たとえば、根管洗浄を「徹底的にやる!」と言っても、実際の臨床で、どんな洗浄液を選択し、どうすれば洗浄液を根管の隅々にまで安全かつ確実に行き渡らせ、その効果を最大限に発揮できるのか、はっきりとした答えがわからない。重要だと知りながら、実際には何となく行っていたり、曖昧な手技になっているのが根管洗浄ではないだろうか。

本書は、そのような曖昧な根管洗浄を、明確な目的をもって、最も適切な方法で行うための Tips に溢れた一冊である。根管洗浄をなぜ行うのか、なぜ重要なのかということから、根管洗浄液の選択、そして、現在有効とされるさまざまな根管洗浄法をどのように臨床で使用していくのかを詳細に解説されている。

本書に記載のある、普段当たり前のように行っているシリンジ単体の洗浄では、実際には、思ったほどの効果が出ないという事実は非常に興味深く、普段の根管洗浄法を見直す大きなきっかけになる。そして、根管洗浄の安全面のリスクも理解したうえで、根尖方

向に圧をかけず洗浄を行うさまざまな方法や、陰圧を利用して洗浄液を還流させる iNP 法など、洗浄液を「安全」にかつ「効果的」に根管の隅々まで行き渡らせるさまざまな方法を学ぶことができる。

さらに、注目したいのは、下顎大臼歯の近心根などに多い 2 根管 1 根尖孔といった Y 字型の根管の合流部の感染源の洗浄法など、複雑な解剖学的形態への対応法や、これからの根管洗浄として、現在非常に注目されているレーザー洗浄、さらに、超音波根管内吸引洗浄といった特殊な洗浄方法の紹介まで広くカバーされており、とても勉強になった。まさに、「根管洗浄を主軸においた根管治療」をすぐに実践できる臨床に即した内容となっている。何よりも、吉岡隆知先生をはじめとしたわが国の歯内療法のトップランナーである 3 人の筆者のロジカルな解説が、非常に読みやすく理解しやすい。

歯内療法の臨床レベルを上げたいと思ったら「根管洗浄」を見直すことは大きなきっかけになる。ぜひ、本書を手にとり、一歩進んだ感染除去で、日常歯内療法を楽しくアップデートしていただきたい。